

2014 度点検・評価シート

I 評価項目・担当部局

対象部局	経営研究所
評価基準 2	教育研究組織
点検・評価項目(1)	2-1 大学の学部・学科・研究科・専攻および附置研究所・センター等の教育研究組織は、理念・目的に照らして適切なものであるか。
評価の視点	教育研究組織の編制原理
	理念・目的との適合性
	学術の進展や社会の要請との適合性
点検・評価項目(2)	2-2 教育研究組織の適切性について、定期的に検証を行っているか。
評価の視点	責任主体・組織、権限、手続きを明確にしているか。また、その検証プロセスを適切に機能させているか。

II 点検・評価

【点検・評価項目ごとの現状説明】

2-1	<p>本研究所では、「会計及び経営に関する理論的及び実証的研究を行う」という理念・目的を達成するために、研究所の組織構成員（所長、研究員、事務室長、事務職員―「規程」第 5 条）を規定し、組織の基本的な運営事項（下記の（1）～（4））を審議する運営委員会（所長、経営学部長、経営学研究科委員長、両学科主任、部会長が構成員―「規程」第 12 条）に関する規程が設けられている。運営委員会では以下の事項を審議する（「規程」第 13 条）と規定されている。</p> <p>（1） 研究所の運営の基本方針に関する事項                  （2） 研究員の人事に関する事項                  （3） 研究所の予算に関する事項                  （4） その他所長から付議された事項</p> <p>また、運営委員会の委任に基づき、専任研究員で構成される研究部会では、研究所の事業計画に関する事項の審議決定を行う（第 11 条）と規定されている。このように研究所の組織の編成および運営するための規程が「理念・目的」に沿って適切に編制されている。</p> <p>2014 年度は、具体的な事業活動として、定期的な研究会の開催、各研究員の研究成果として刊行物（研究叢書 1 点及びリサーチペーパー 3 点）の発行、地域連携事業の推進、経営シンポジウムの開催（研究成果の社会への還元）、ホームページによる研究所の活動状況や研究成果に関する情報発信などの事業を展開しており、研究の推進という研究所の本来の理念・目的に照らして適切に運営されている。</p> <p>また、今日では社会環境の変化とともに地域連携事業の推進などにより社会貢献活動の必要性が認知されており、必要に応じて既存の組織編成の中で柔軟に対応している。</p>
2-2	<p>研究活動の実施にあたっては、規程に基づき組織的に対応している。事業活動を実施する場合には、各年度の「事業計画」に盛り込み、運営委員会（「規程」第 12 条）、研究部会（「規程」第 10 条）での審議・決定を経て、所長の統括（「規程」第 5 条）の下に運営されており、その責任主体は明確であり、その適切性は定期的に検証されている。</p> <p>また、教育研究組織としての経営研究所の今日的な多様な課題に対応するために、運営委員会、研究部会を通じて必要に応じて検証が行われている。</p>

【効果が上がっている事項】

2-1	
2-2	

【改善すべき事項】

2-1	社会環境の変化に応じた事業運営ができるように、幅広い事業展開、外部資金の導入、外部研究員の積極的な登用など必要に応じて規程の改正を検討すべきと考える。
2-2	

本項目の根拠資料（データ類、裏付けとなる資料）

「大東文化大学経営研究所規程」
《指標データ》
なし

III 【達成目標】 目標の進捗状況は、「S：完全に達成」「A：概ね達成」「B：やや不十分」「C：不十分」で、評価する。

達成目標	目標達成の指標となるもの	評価				
		2014	2015	2016	2017	2018

学部附置研究所

<p>中期目標 (2014～ 2018)</p>	<p>2-1 環境の変化に柔軟に対応して研究所の事業活動を推進し、さらに活性化するような組織編成・運営を目指す。</p>	<p>研究所活動が活性化するような組織編成及び運営がなされているか検証し、社会の変化に適応するような規程改正が行われていること。</p>	→					
<p>14年度 目標</p>	<p>2-1 事業活動を推進するような組織編成・運営を図るため、学内及び他大学の組織編成・運営状況の研究と視察を行う。</p>	<p>研究・教育活動をさらに推進・活性化するような組織編成・運営を目指し、左記の研究と視察の成果を運営委員会や部会に報告すること。</p>	→	C				